

クルアーンの特徴

ムスリムの皆様。聖クルアーンは、その様々な節において、クルアーンがどのような本であるかを説明しています。本日のホツバにおいて、その中のいくつかの節をお伝えしたいと思います。

この（クルアーン）は、人びとに対する明証であり、導きであり、また信心の堅固な者への慈悲である。（アル・ジャーシヤ 45 章第 20 節）

これが（真の）導きである。主の印を信じない者たちには、忌しく苦しい懲罰がある。（アル・ジャーシヤ 45 章第 11 節）

いや、これは正に訓戒である。だから誰でも欲する者には、それを肝に銘じさせなさい。

（アル・ムッダッスィル 第 54 と 55 節）

これは、人びとに対する伝言で、これによってかれらは警告され、かれが唯一の神であることを知らされ、同時に思慮ある者たちが戒められる。（イブラーヒーム章第 5 2 節）

それ（クルアーン）は、呪われた悪魔の言葉でもない。それなの

にあなたがたは（それらのことを信用せず）何処へ行くのか。これ（クルアーン）こそは、万人への教訓に外ならない。それはあなたがたの中、誰でも正しい道を歩みたいと望む者のためのものである。（アッ・タクウィール章第 25 - 28 節）

われがあなたに下した啓典は、祝福に満ち、その印を沈思黙考するためのものであり、また思慮ある者たちへの訓戒である。（サード章第 29 節）

かれらはクルアーンを、よく考えてみないのであろうか。もしそれがアッラー以外のものから出たとすれば、かれらはその中にきっと多くの矛盾を見出すであろう。（アン・ニサーア章第 82）

このように、われはこの啓示をアラビア語のクルアーンとして下し、その中でいろいろと警告を伝えた。多分かれらは主を畏れ、または教訓を会得しよう。（ターハー章第 113 節）

言ってやるがいい。「仮令人間とジンが一緒になって、このクルアーンと同じようなものを齎そうと協力しても、（到底）このようなものを（強？）すことは出来ない。」われはクルアーンの中で、種々の比（輪？）を挙げて人びとに説明した。それでも人びとの多くは、不信心一筋に（その受け入れを）拒否する。（アル・イスラ一章第 88 と 89 節）

本当にこのクルアーンは、正しい（道への）導きであり、また善い行いをする信者への吉報である。かれらには偉大な報奨が授けられる。

また来世を信じない者には、われはかれらのために痛ましい懲罰を準備した。（アル・イスラ一章第 9 と 10 節）

これはわれが下した祝福された啓典で、以前に下したものを確認し、また諸都市の母（マッカ）とその周辺に、あなたが警告するためである。来世を信じる者は、かれらの礼拝を守りそれを信仰するであろう。（アル・アンアーム章第 9 2 節）

本当にこのクルアーンの中で、われは凡ての例を引いて人間のために詳しく述べた。しかし人間は、論争に明け暮れる。（アル・カハフ章第 5 4 節）

もしもわれがこのクルアーンを山に下したならば、それはきっと遜って、アッラーを恐れて粉々に砕けるのを見るであろう。こんな譬えを、われは人間に示すのは、恐らくかれらが熟考するであろうと思うからである。（アル・ハシュル章第 21 節）

本当にわれは人びとのため、このクルアーンの中に種々の譬えを提示した。だがあなたが、仮令どの一節を持ち出しても、信じない者は必ず、「あなたがたは虚偽に従う者に過ぎません。」と言うであろう。（アッ・ローム章第 58 節）

だが、この（クルアーン）こそは、万有のための訓戒に外ならない。（アル・カラム章第 5 2 節）

